

平成 27 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会 議事要旨

日 時 : 平成 28 年 1 月 20 日 (水) 10 : 00 ~ 11 : 50

場 所 : いの町 かんぼの宿伊野 1 階 会議室

■ 平成 27 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会

○ 事務局より委員の紹介

- ・出席 8 名、代理出席 2 名、欠席 3 名
- ・新規

吉村 正男 委員 (仁淀川漁業協同組合 総務部長) : 河口域部会

○ 議題

(2) - ①仁淀川一斉清掃の実績について

事務局より、資料 1 に基づき、平成 27 年度仁淀川一斉清掃の実績やバックテストによる水質調査結果、来年度の課題等について説明。

(石川会長)

- ・来年度の課題に記載のある清掃箇所の拡大については、各部会で協議し、積極的に開催してもらいたい。

水質調査については、メニューに固定化し、経年変化を確認していけるようになればと思う。

(大下委員)

- ・水質調査について、他の (大下委員が参加していない) 会場での実施であるので、イメージしにくい。

参加している子供たち全てに配布してテストを実施しているのか。

(石川会長)

- ・越知、佐川会場では、有志と中学生約 20 名で実施しており、参加人数が多いときは、班分けをしている。水は事前に役場の方に採取してもらい、一斉清掃当日に持参してもらっている。7 地点分 (1 地点あたり 3 本の平均) をテストし、清掃終了後に公表している。

(大下委員)

- ・河口部会では、他の部会より 1 時間前に清掃を開始しており、暗くて分かりにくい状況が予想されることから、事前にテストを実施し、その結果を報告するという形式がよいと思われる。

(事務局)

- ・パックテストを並行して実施すれば、テストにかかりつきりとなるため、事前に実施、結果の掲示・公表形式がよいと思われる。

(大下委員)

- ・啓発の意味で、上流域から河口までの分析結果が分かることはよいことだと思う。

(井上副会長)

- ・上流域（仁淀川町会場）では、清掃が終了してから、参加者にパックテストを見学してもらっており、昨年度は子供の参加があったが、今年度はなかった。ゴミを回収する場所でテストを実施できず、清掃参加者全員に広報できなかったことから、来年度はゴミの回収場所でテストを実施したい。

(石川会長)

- ・パックテストは実際に見ることも意義があることだと思うので、やり方については各部会で検討してもらうこととして、全会場で実施することについては了解いただけるか。

(各委員)

- ・了解

(安達委員代理清水副所長)

- ・全会場でパックテストを実施する際、説明できる人はいるのか。一般の参加者に分かりやすい説明が必要であると思われる。

(事務局)

- ・上流域（仁淀川町）と同様に、県環境研究センターに依頼するなどし、対応したい。

(安達委員代理清水副所長)

- ・結果が出たものに対しては、コメントや説明がないと一般の方には分かりにくいと思われる。

次にゴミの分析という視点から、当事務所は、河川管理者であるとともに海岸工事も所管しており、地元と会合も持つ機会があった。内容は昨年11月に突発的な雨が降り、大量のゴミが仁淀川を通じ海へ流出。ほとんどが草木であ

ったが、ビニールやブルーシート等の人工物や企業系のゴミも含まれており、ゴミの流出で迷惑するのは、河口や海岸だという意見があった。

ゴミの話を進めていく上では、海に流れているということを心に留めて検討をお願いしたい。

(石川会長)

- ・よい考えはあるか。

(井上副会長)

- ・上流域の人も下流域と一緒に清掃を実施することで、思いを共有できるので、そういう機会を設けてみてはどうか。

(石川会長)

- ・現地勉強会を開催し、一斉清掃時にその結果を掲示するなどすれば、河口の状況を一体で共有できると思われる。

(山崎委員)

- ・写真を見ても、実感としてわかりにくい。
越知会場では比較的ゴミが少なく、実際にみることが重要だと思う。
実際に被害として出ているのか。

(安達委員代理清水副所長)

- ・シラス漁（バッチ網使用）において、網に物がかかり、商品に影響が出る、網自体が破れるといった被害が出ている。

(山崎委員)

- ・ゴミの完全撤去は難しいと思われる。

(安達委員代理清水副所長)

- ・時期によっては、清掃で対応できるが、河道に木が残ったり、ブルーシートは取り切れないといった状況であり、突発的な雨等により下流に影響が出ている。
実態を見てもらうことが大事である。

(大下委員)

- ・ゴールデンウィーク前にパートナーシップで清掃を実施した。

河口部では約100mの区間で実施したが、どれだけゴミを取っても減らない印象を受け、残念だった。パートナーシップではそれぞれ、持ち場を決めて数日間清掃を実施しており、持ち場のゴミが減っている話を聞くが、河口部では当てはまらない。

(石川会長)

- ・パートナーシップの河口部の方は近隣の方が多いのか。

(大下委員)

- ・高知市周辺の方が多い。

(山崎委員)

- ・季節によってゴミの量の変化はあるのか。

(安達委員代理清水副所長)

- ・出水によって量の変化がある。今年度は冬場に2度大きいゴミの流出があり、年末に国土交通省と県で重機を使用し、ゴミの収集を行ったが、浮遊しているものまで取りきることができなかった。それが問題である。

河口部や海岸部の方も全部取り切ってくれではなく、上流域の人も取組をしているといった姿勢を見せることが、重要なことだと思われる。気持ち的にも違ってくると思う。

(石川会長)

- ・河口域での勉強会を開催することで、状況や思いを共有することが重要である。関係機関の皆さんにも協力をお願いする。

(2) ー②仁淀川シンポジウムについて

事務局より、資料2に基づき、第5回仁淀川シンポジウムの内容等について説明。

(吉村委員)

- ・ワークショップ参加者はこういった形で二つのテーマに分かれるのか。

(事務局)

- ・事前のチラシ記入欄の返信や当日受付時の確認等により分かれてもらう。

(安達委員代理清水副所長)

- ・ファシリテーターはメイン、サブとも事前に打合せ等を行うのか。

(事務局)

- ・来週（1月25日）にファシリテーターの皆さんに集まって頂き、打合せを行う予定。参加できない方は個別に打合せを行い、当日11:00くらいから最終打合せを行う。

(石川会長)

- ・チラシが完成したようで、大いに宣伝をお願いしたい。地元である日高村でも広報をお願いしたい。

(戸梶委員)

- ・村の広報紙への折り込みや各学校への呼びかけなどにより広報に努める。

(森谷委員)

- ・テーマ（2）美しい環境・景観の保全については、森林の荒廃問題と関わりが深い。まずは単純な課題だけではなく、現状を伝えることが重要だと思う（走り出しの問題提起）。事前にファシリテーターと調整を進めるのか。

(事務局)

- ・昨年出た意見をたたき台として進めたい。

(井上副会長)

- ・昨年は意見交換がメインで終わった印象がある。テーマに関するもののうち、一つでも行動に移そうというイメージが必要と思う。

(吉村委員)

- ・海に関わる方にも参加していただいて意見を言ってもらえることも重要。

(安達委員代理清水副所長)

- ・ご紹介するようにしたい。上流の方の取り組みを紹介する場にもなると思われる。

(石川会長)

- ・今までは川の視点で進めてきたが、海へ広げてみることも大事だと思う。

(山崎委員)

- ・海へゴミを流さないという点に絞っても波及効果等が考えられる。

(大下委員)

- ・今年度のテーマ（１）、（２）について「実際に川へ行く」という視点では重複する面があると思う。テーマ（１）では、子供たちが川へ行けばゴミも減少するといった視点の掘り下げにも期待したいことから、また相談したい。

(石川会長)

- ・シンポジウムの前に２つのテーマ間の重複等を考慮した打合せをお願いしたい。

また、インパクトのあるゴミの状況や手入れされた森林、手入れされていない森林、清流を表す写真は事務局で収集可能か。

(事務局)

- ・できる範囲で準備したい。

(高橋委員代理三好課長補佐)

- ・生物多様性コンクール写真や高橋宜之氏の写真、仁淀川の現状の写真など工夫したい。また例えば日高村の会場の南側に県有林(ヒノキ人工林)があるが、間伐し、山に光が入ることで清流を保つことに重要な役割を担うといったことが伝えられるような写真も準備したいと思う。

(大下委員)

- ・調査ブース（西日本科学割り当て分）の展示についても河川に特化したものだけではなく、農地や山を取り入れたもので構わないか。

(事務局)

- ・構いません。また協議をお願いします。

(中澤委員)

- ・駐車スペースは十分か。

(事務局)

- ・日高村にお願いして、約１００台は駐車可能。近隣の保育園も駐車に協力してくれる。また駐車場には誘導スタッフを配置する。

(安達委員代理清水副所長)

- ・チラシにイラストが描いてあるが、学生が作成したのか。

(事務局)

- ・浅尾沈下橋の写真を基に高紙のオリコミ紙である「ミリカ」のデザイナーが作成した。

(森谷委員)

- ・県の方でも森林関係の写真は色々あると思うが、国の方でも協力する。

(石川会長)

- ・委員の皆様も参加をお願いします。気付いた点等あれば、事務局の方へお願いします。

(3) その他

事務局より仁淀川清流保全計画の進捗状況について（P 14 及び別紙2）、仁淀川シンポジウムでの発表内容（仮）（別紙2）について説明。

(石川会長より)

- ・気付いた点等あれば、事務局へお願いします。

(4) 各委員より

(安達委員代理清水副所長)

- ・当事務所は下流域及び高知海岸の管理に従事しており、上・下流域の連携が多くの問題解決の糸口だと考えられる。今後も会議等に積極的に関わりたい。

(大下委員)

- ・パートナーシップの清掃活動について、参加者の固定化や高齢化等の問題はあるが、今後も継続して行いたい。

また清掃箇所の空白地があり、どのように埋めていくか考えていく必要がある。

(戸梶委員)

・仁淀川流域交流会議の場において上下流域の連携した活動を大事にしていく。例えば川をきれいに保つための山の保全であったり、家庭排水に対して下水道までは行かないまでも合併浄化槽の設置などを行政の責務として訴えていく。

また水害対策として国土交通省が放水トンネルを整備してくれることとなり、放水トンネル整備への感謝の意も込めて2月13日に日下川及び戸梶川において一斉清掃を実施する予定である。

水害に対して再度災害防止のための治水条例についても現在準備中である。

(中澤委員)

・国土交通省が発表する一級河川の水質ランキングにて平成24年度から平成26年度まで水質日本一となり、観光客も増加している。流域6市町や観光協会などで構成する「仁淀川地域観光協議会」も「仁淀ブルー観光協議会」へ名称変更、場所も西佐川駅舎に移転予定であり、今後も清流保全とともに観光面に力を入れて取り組んでいく。

(森谷委員)

・最上流部の国有林の間伐を担当する立場として、協議会への参加はありがたい。人工林の間伐は一定進んできたが、雑木林や里山の放置を問題視しており、炭や電力(バイオマス)等、地域の産業と結びつけて取り組んでいくことが重要であると考えている。

また情報発信も重要であると考えており、ゴミの問題もメディアの力を借りることも大事だと思う。

できることは限りもあるが、手伝えることは積極的に関わっていききたい。

(山崎委員)

・間伐の取組にしても、川でのタタキづくり体験でも色々な人が参加してくれることが重要である。

(吉村委員)

・別紙1に記載のあるように漁協では、黒森山の植樹活動や仁淀川の森と山を考えるシンポジウム等に取り組んでいる。漁協として河川を守らなければならないという思いがあり、組合員の色々な意見はあるが、今後も継続して取り組んでいきたい。

パートナーシップの清掃活動にも継続して参加したいし、水産庁の補助を受けて波介小学校においてアメゴの掘み取りイベントも開催している。

今後、機関紙の発行等にも取り組んでいきたい。

(高橋委員代理三好課長補佐)

- ・清流保全のためには、森林や自然公園、自然保護などが点ではなく、線につながっていくことが重要だと改めて認識した。

ゴミの問題も上流から下流のつながりであるし、高知海岸のウミガメについては、浮遊ゴミで上陸数が減っていることもあり、国土交通省さんの方でふ化場を造っていただいたことから、川と海の意味疎通が大事だと認識した。

来年度以降も各委員さんにご協力をお願いしたい。

(石川会長)

- ・河川だけでなく、里山や生物多様性など多くの分野との関わりが広がることが重要である。

(井上副会長)

- ・四万十川や吉野川の源流点については、現地に明示がある。仁淀川の源流点については案内がない。表示やPRをお願いしたい。

以上。